

2025年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
日本と台湾の水素製造と環境政策の比較調査	Aコース

学生情報	
氏名	森 理紗子
所属学部・研究科	工学科応用化学コース
学年(出発時)	4年

渡航先情報	
渡航先	台湾
渡航先滞在期間	2025年11月10日～2025年11月20日
訪問先機関等	国立成功大学、国立宜蘭大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容
<p>今回の渡航目的は、日本と台湾における環境政策に対する市民の意識を比較調査すること、そして現地の研究室を訪問し、今後の自身の研究活動に役立てる知見を得ることであった。まず、環境意識調査のために事前にアンケートを作成し、国立成功大学と国立宜蘭大学を訪問した際に回答を集めた。アンケートの結果および学生との意見交換から、台湾では環境問題に対する意識が非常に高いことが分かった。また、台北・台南・宜蘭に滞在する中で、どの都市でもその意識の高さを実際に感じる事ができた。具体的には、ホテルにアメニティが置かれていないこと、ゴミ箱に資源回収の区分が設けられていること、コンビニにゴミ箱が設置されていないことなどが挙げられる。さらに、ゴミ収集車が夜に音楽を流しながら回収に来る点も、日本との大きな違いとして印象的であった。研究室訪問では、液晶ポリマーと触媒に関する研究について教授や学生の方々から丁寧な説明を受けた。使ったことのなかった抽出装置やカロリー測定装置を実際に操作することができ、とても勉強になった。また、言語の違いからうまく話せない場面もあったが、研究室の方々は大変親切に接してくださり、お互いの研究室生活や環境問題への取り組みについて有意義な意見交換を行うことができた。さらに、宜蘭大学では日本語の授業にも参加させていただき、台湾と日本の文化の違いについて学ぶ機会を得た。授業中には三重大学を紹介する時間を設けていただき、両大学の共通点や相違点について理解を深めることができた。学校が終わった後も、学生の方々に観光地や食事に連れて行っていただき、充実した交流を行うことができた。現地の方々の温かく親切な人柄に支えられ、今回の11日間は大変実りのある渡航となった。</p>

渡航により達成できたこと
<p>今回の渡航で達成できたことは、台湾の環境政策に対する市民の意識を具体的に把握できたことである。アンケート調査の結果から、台湾の市民は再生可能エネルギーの普及よりも、まず電力供給の安定性を重視していることが明らかになった。また、リサイクルを推進する上で重要だと考える項目については、「政府の制度改善」よりも「市民自身の意識向上」を重要視する回答が多く、環境に対する主体的な姿勢が見られた。さらに、意見交換では「ビニール袋や使い捨て食器の有料化は1台湾ドルでは効果が弱い」「夜市のリサイクル状況は改善が必要である」といった具体的な提案が挙げられた。加えて、日常生活における環境配慮の実践について尋ねたところ「マイ食器を持参する」「できる限りリサイクルに努める」といった行動が多く挙げられ、市民の環境意識の高さを実感した。研究面では、現地の研究室を訪問し、3Dプリンター・カロリー測定装置・抽出実験など、触れる機会の少ない設備や実験手法を直接学ぶことができた。また、教授や学生から研究内容を丁寧に説明していただき、台湾の研究姿勢を理解する貴重な機会となった。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航では、市民の環境意識の高さと学生たちの温かさが特に印象に残った。ごみの分別の徹底や多くの学生が「政府にもっと厳しく取り締まってほしい」と回答したことから、台湾では環境問題を日常生活の延長として捉え、主体的に関わろうとする文化が根付いていると感じた。また、学生同士の交流を通して、さまざまな場面で丁寧に気遣ってくれる姿に触れ、「相手を思いやる行動」の大切さを改めて実感した。私自身は英会話能力が低く、うまく会話ができない場面もあったにもかかわらず、現地の学生は温かく受け入れてくれた。その姿勢に触れ、自分も同じように相手を思いやり、支えられる人間でありたいと強く感じた。さらに、宜蘭大学では日本語の授業で知り合った学生とともに学内の博物館を訪れ、台湾が日本統治時代に使用していた金庫や成績表などの資料を見学した。現地の学生が丁寧に説明してくれたことで、当時の歴史や文化背景をより深く理解することができた。今回の渡航テーマとは直接の関連はないものの、戦時中の歴史を日本人としてきちんと知っておく必要があると強く感じた。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の渡航で得た経験は、今後の学修やキャリア形成に大きな影響を与えるものであった。台湾の研究室で学んだ実験方法や機器の使い方は、自身の研究にも応用でき、より広い視点で研究に取り組むきっかけとなった。また、現地の学生との交流は大きな刺激となり、所属している分析環境化学研究室で行っている、環境に優しい水素生成法の研究にこれまで以上に力を入れたいという思いが強まった。さらに、台湾の環境政策や市民の意識を知ることができたことは、今後の研究テーマを考える上で重要な視点となった。コミュニケーション面では、英語力が自分の大きな課題であると痛感した。受験英語の知識だけでは十分に会話に対応できず、現地の方々とのコミュニケーションに苦労する場面もあった。しかし同時に、言語が完全に通じなくても、積極的に話しかける姿勢が交流を生むことも体験することができた。この経験を糧に、今後は英会話能力の向上に努めるとともに、海外の人とも積極的に交流する姿勢を大切にしていきたい。今回の渡航で得た学びを確実に自分の成長につなげられるよう、今後も努力を続けたいと考えている。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

私は、台湾への渡航を通して貴重な経験を得られたため、海外チャレンジに応募して本当に良かったと感じている。海外に一人で11日間滞在することに不安はあったが、実際に参加したことで、自分の積極性や行動力が成長したと実感している。この事業に応募するか迷っている学生に伝えたいのは、特別なスキルがなくても、「挑戦してみたい」という気持ちが少しでもあるなら、ぜひ一歩踏み出してほしいということである。実際に渡航して感じたのは、海外で得られる学びは想像以上に自分の世界を広げてくれるということだった。言語や文化の違いに不安を覚えるのは当然だが、現地の学生や住民は温かく、困っているときには必ず助けてくれる。言葉が完璧に話せなくても、伝えようとする気持ちがあれば十分にコミュニケーションは成り立つ。迷いがあるならこそ、思い切って挑戦してみしてほしい。勇気を出して海外に飛び込んだ経験は、自信となるだけでなく、今後の学びやキャリアにも大きな影響を与えてくれる。そして何より、そこで出会う人や景色、体験はかけがえのないものとなる。海外チャレンジに応募する価値は間違いなくあると思う。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	51,876円
海外旅行保険	6,495円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	
宿泊費	103,607円
光熱費	
食費	20,000円
その他	40,596円
合計	222,574円